

5月27日付の報道から

要点：

- ① 年間新規感染者は1,500名越えて横ばい。ただし、20代の新規感染者が過去最多の349名。
- ② エイズが発症して判明した人(いわゆるいきなりエイズ患者さん)が約1/3の455名。
=感染していても長期にわたって感染に気付いていない人。
- ③ 東京・名古屋・大阪以外で、沖縄・九州地区の増加とともに、福井県で増加：福井県については理由が不明であるが、人口10万人あたりの報告数として上位に入ってきた。

1) HIV、20代は過去最多=14年感染者、横ばい続くー厚労省

時事通信 5月27日(水) 20時26分配信

厚生労働省は27日、2014年に新たに報告された20代のエイズウイルス(HIV)感染者は349人で、過去最多だったと発表した。同省エイズ動向委員会の岩本愛吉委員長は「10代に向けたエイズに関する知識の普及啓発が、不足している可能性がある」と指摘した。

同省によると、14年の1年間に報告された感染者は1091人で、検査を受けないままエイズを発症した患者は455人だった。いずれも08年以降、横ばいが続いている。

感染者のうち、20代は349人で統計を取り始めた1985年以降で最も多かった。20代の感染者数が30代(347人)を上回ったのも12年ぶりという。

エイズを発症した地域別の患者数は、全体の約2割を占める東京都など都市部に多いが、罹患(りかん)率は1位が沖縄県、2位は福井県だった。

岩本委員長は「沖縄県は外国人観光客の多さなどが考えられるが、福井県が上位に入る要因は分からない」と述べ、分析が必要だとした。

2) エイズ感染高水準、過去3番目 厚労省、九州で増加傾向

2015/05/27 19:32 【共同通信】

厚生労働省のエイズ動向委員会は27日、2014年の1年間で新たにエイズウイルス（HIV）への感染が判明した人の数が過去3番目に多い1546人だったとの確定値を発表した。今年2月に発表した速報値1520人から修正した。

新たな感染者の報告は近年、1500人以上の高水準が続いている。エイズを発症して初めて感染が判明した人の数は455人で過去4番目に多かった。

東京、大阪、名古屋の三大都市を含む地域からの報告が約8割を占めるが、九州地方からの報告が2年連続で増加。人口10万人当たりのエイズ患者報告数では沖縄県が最も多かった。